

## IFA国際肥料会議inチェコ

今年5月22日～24日に東欧のチェコ、首都プラハにて行われたIFA[国際肥料協会]が主催する国際会議に当社原料部職員で参加してきた。

まず開催国となったチェコ(正式：チェコ共和国)について、かつてはチェコスロバキアと呼ばれた共産主義国家だったが、1989年の革命によりその体制が崩壊、1993年にチェコとスロバキアへ分離して現在に至る。北はポーランド、東はスロバキア、南はオーストリア、西はドイツに挟まれた海なし国で、石畳の道に赤色のレンガ屋根と中世の面影をそのままにしたお洒落なプラハの街並みは、“世界一綺麗な街”として世界遺産に指定さ

れるほど。食文化は肉料理がメインであり、あのピルスナービール発祥の地と言われるだけあって、国民一人当たりのビール消費量は世界一とビール大国でもある。

そんなプラハの街で行われたIFA国際会議であるが、会議は年2回(春、秋)ヨーロッパ、アジアなど世界各国で行われ、世界中の肥料に関係する企業(原料及び肥料メーカー・バイヤー・トレーダー・船会社・情報誌機関など)が一堂に集結した。コロナ禍によって一時期は参加者が減少していたが、今回のプラハ会議では欧米、アジア、中東、アフリカなどから総勢約1,100名もの参加者が開催場所であるプラハヒルトンホテルに集まった。メインとなるイベントは主催者であるIFA、そして世界を代表する大手肥料メーカー各社による世界の肥料市況や今後の展望についての説明、考察のプレゼンとなり、またその他にも大広間では最新の肥料散布用ドローンやグリーンエネルギーを利用したサステナブル農業技術を紹介するといった農業資材メーカーのブースが立ち並んだ展示会のようなエリアもあった。そういったメインとなるイベントの傍らで情報交換を行うこともこの国際会議への参加の目的でもある。当社メンバーも尿素、燐安、塩化カリといった原料メーカーの各社と会議を行い情報交換をおこなってきた。

一昨年未からの市況高騰の要因となった中国、ロシア、ベラルーシの原料メーカーも参加しており、供給面については一時期の混乱状況を脱した感はあるが、依然として安定化には至っていない状況にある。一方で、足元では市場動向に不透明感が残っている中、メーカーやバイヤーの会話も「探り合い」「様子見」と言った形で、盛況と言える参加人数とは裏腹に内容としては熱気を感じられるものではなかった。市場が活発化してくるのはもう数ヵ月先となる見込みで、暫くは様子見の状態が続くと思われる。

当社原料部としては、こう言った世界市場の動向も精緻に把握して行きながら、競争力ある原料を安定的に調達する使命を果たしていきたい。(原料部)



プラハの街並み



国際会議の様子

## ～恩智神社を訪ねて！～

6月に入り、一年の折り返し時期へと差し掛かって参りました。新型コロナウイルス感染症も第5類へと移行され、全国各地や当社大阪支店近くの新大阪駅も、大きなスーツケースを持った海外からの観光客や修学旅行生の姿で人通りも疎らだった自粛期間とは比較にならない程、大勢の人々で賑わっています。徐々に以前の日常を取り戻しつつある大阪で、今回は今話題の恩智神社をご紹介します。

恩智神社は大阪府の中央部東寄りに位置し、西は大阪市、北は東大阪市、南は柏原市・松原市、藤井寺市に、



東は生駒山系を境に奈良県と隣接している八尾市にあります。八尾市は、大阪市の近郊都市として発展し、人口は20万人を超え大阪府内第9位の中核都市です。(平成30年4月1日現在)また農業も盛んで『八尾えだまめ』、『八尾若ごぼう』等が名産で、都市部に近い立地を生かした近郊農業が盛んに行われています。また製造業では『歯ブラシ』生産で全国トップシェアを誇っています。そんな八尾市に位置する恩智神社は今年に入り某テレビ番組の企画で全国開運神社ベスト3位として取り上げられてから、今まで以上に訪れる人々が増えている今話題のパワースポットです。

恩智神社の歴史は古く、西暦470年頃(古墳時代末期)に創建されたと伝えられており、現在は大御食津彦命(おおみけつひこ)、大御食津姫命を主祭神として祀っております。この神社が今話題となっている一つに拝殿前に鎮座する神兔の像があります。兔は飛び跳ねる姿から飛躍、向上を表す縁起動物として、導きの神様としても祀られており、交通安全や縁結び等あらゆるものをいい方向に導いてくれるとされています。さらにもう一つ拝殿前と本殿内に鎮座する像、神龍があります。龍にも導きのご利益がある事から、本殿前の龍にお参りしてから、拝殿前の神龍の持つ神霊(たま)を撫でる事で開運のご利益があるとされています。このように今年2023年は卯年、来年2024年は辰年である事から、両方の干支がいる全国的にも珍しい縁起の良い神社として人々の心を掴んでいます。また本殿・拝殿の少し北側の境内へと進めば、弘仁年間(810年頃)に弘法大師が参拝した折、峡谷の岩底に錫杖を突き立てた時に霊水が沸き出したと言い伝えられる関伽井戸(清明水)があります。関伽井戸は天候を予知する清水として知られ雨が降る前になると赤茶色の濁水が流れ出るとされています。

恩智神社はこのような事から、特に今年から来年に向け、非常に縁起のいいパワースポットとして大勢の人々の心を掴んでいるようです。



私達の日常生活では、ロシア、ウクライナ戦争の長期化、各地で頻発する地震、季節外れの台風襲来に伴う自然災害、電気代を含む様々な日常品の値上げ等、暗い話題であふれ返っています。そんな今日において、兔(卯)の様にピョンピョンと良い方向へ飛躍し、上り龍(辰)の如く運気が上昇していく事を願ってやみません。皆様にとって今日より明日、今年より来年が良い方向に飛躍する未来となりますように、大阪にお越しの際には少し足を伸ばして旬のスポット、恩智神社でパワーを頂いてみては如何でしょうか。

うか。(大阪支店)

台風2号により被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

ハザードマップの確認や防災リュックの準備など今一度見直しが必要かもしれませんね。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>